

## サイト別データの見方（2013 年度版）

### 1. インプット項目

- ・投入、使用、取扱の実績のない項目は、ブランクとしています。
- ・燃料には社用車の燃料を含みます。
- ・テナントとして入居しているために水使用量を把握できない場合は、ブランクとしています。
- ・紙使用量はコピー用紙、事務用紙を対象としています。
- ・指定した単位において、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています  
（「0.0」と表記された項目は「0.05」未満であることを示します）。

### 2. アウトプット項目

#### 1) 温室効果ガス

- ・排出実績のない項目は、ブランクとしています。
- ・<国内事業所の電力量の CO2 換算について>  
CO2 排出量のうちの電力量の CO2 換算については、電気事業連合会/  
日本経団発表の償却クレジットを反映した排出係数(値は対象年度の前年度実績)を  
適用しています。
- ・<海外事業所の電力量の CO2 換算について>  
JEMA 推計調査(2006 年 6 月)における最新年の値(2003 年推計値)から  
「CHP の発電電力量起因の CO2 排出量を加味した排出原単位」を適用しています。
- ・<燃料の CO2 換算について>  
「温対法」による「燃料種類別の単位発熱量、排出係数」より、「CO2 換算係数」を  
算出して、燃料種類別に適用してから、その総和を算出しています。

#### 2) 大気汚染物質

- ・対象施設がない場合、および法令の管理対象外の項目は、ブランクとしています。

#### 3) VOC 大気排出量

- ・取扱実績がない場合はブランクとしています。

#### 4) PRTR 対象化学物質排出量・移動量

- ・取扱実績がない場合はブランクとしています。
- ・取扱実績がある場合でも、全て製品に使用され、排出量・移動量に相当する使用方法が

ない場合はブランクとしています。

#### 5) 排水量

- ・テナントとして入居しているために水使用量が把握できない場合は、排水量をブランクとしています。
- ・公共下水への放流の場合は、BOD はブランクとなりますが、自主的に測定している場合のみ数値を記載しています。

#### 6) 廃棄物

- ・実績のない項目は、ブランクとしています。
- ・廃棄物発生量は産業廃棄物と事業系一般廃棄物の合計となります。
- ・減量化量は中間処理において「単純焼却」「熱回収焼却」「脱水処理」「その他」により重量が減った分を示しています。
- ・熱回収処理において減量した重量をサーマルリサイクルした分とみなし、再資源化量に加えています。
- ・「最終埋立処分量」の実績が無い場合は、「埋立／発生量比率」はブランクとしています。
- ・営業拠点（九段、大阪、仙台、埼玉、名古屋、広島、福岡）に関しては、小規模のため混合廃棄物として処理委託しており、このためリサイクル量や最終埋立処分量の数値制度の確保が難しいことから、全量を最終埋立処分量とみなして集計しています。

#### 7) 指定した単位において、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています。

（「0.0」と表記された項目は「0.05」未満であることを示します。）

### 3. 個別詳細項目（各拠点で 2 ページ目以降の部分）

#### 1) 排出ガス濃度

- ・ばい煙発生施設のあるサイトのみ実績を開示しています。施設のないサイトは記述を省略しています。

#### 2) 有害大気汚染物質の使用

- ・ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、クロロフォルム、塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、ベンゼン、アクリロニトリル、1,2-ジクロロエタン、ホルムアルデヒド、二硫化ニッケル、硝酸ニッケル、アセトアルデヒドは、使用実績がないので記述を省略しています。

### 3) VOC (揮発性有機化合物)、P R T R対象化学物質

- ・ 投入量のあるサイトのみ実績を開示しています (年間取扱量が50kg以上)。  
投入量のないサイトは記述を省略しています。

### 4) 排出水水質

- ・ 法令等が定める特定施設を有する拠点など、排出水水質を測定している拠点は測定結果を開示しています。
- ・ 基準値における「不検出」は、測定できる範囲で検出できないことを基準としています。
- ・ 測定値における「< (数値)」は、測定可能な範囲が (数値) 以上であり、(数値) 以上の値が検出されなかったことを意味します。  
例えば、「<0.01」は、0.01 以上の値が検出されなかったことを意味します。